



# 「伝統を守る」 白木 勇治さん 京都府



## 審査講評

### 尾辻 弥寿雄

日本写真家協会会員  
日本リアリズム写真集団会員

## 総評

年々応募作品に力が増している。撮影者が農村の現場で発見し驚き感動したものがしっかりと写っています。なんとなく美しいからとシヤッターを押し続けた作品は力伝わりなく、訴求力が弱くなります。また、農村のコンテストだからとひと昔前のイメージでの撮影したものにはオリジナリティーに欠けます。技術的にはデジタルカメラの普及で誰もが遜色なく撮れる時代となりました。あとは、作者の問題意識と感性が表現されているかどうかです。

## 個別評

今年の最優秀賞になった作品はまさに「新・日本の農村」のテーマをしっかりと意識した作品でした。応募作品の選択は、コンテストのテーマを理解することから始まりますが、あくまでも作者が現場で何を感じたのが主題となります。それぞれの作者が、自分の目で探出した作品が貴重なのです。昨年からは今年にかけて地球全体の温暖化現象で日本各地でも異常気象が続いていますが、さらに1月の能登半島地震という大災害までも起きました。伝統ある美しい農村も素晴らしいものですが、自然現象と闘う農村や農民の姿

### ▼最優秀賞「畑で充電」

名雪誠さん(千葉県)

主体は野菜かソーラパネルか？どちらも主体という視点が素晴らしい。さらに、頭上の黒い帯の板一つ一つが見え、作物の葉が光るトップライトの選択が生きました。農村の「いま」を具事にとらえています。これに人物が登場していると、このコンテスト史に残る作品になったこと

▼銀賞「春を撒く人たち」

坪井智洋さん(北海道)

ひと昔前の囲炉裏や電の灰を集めスコップで撒いていた光景ですが、今は融雪剤をスノーモービルに載せて広い畑を走る時代です。しかし、いつの時代でも春を呼び込むのが農

▼銅賞「楽しい家畜共進会の日」

五十嵐敏紀さん(秋田県)

大人の大切な日である家畜共進会を、子ども目線で記録した楽しい作品です。ペテラン写真家の新たな境

▼銅賞「大水害の農村」

3枚組

河野サエ子さん(山口県)

猛威を振る自然災害の爪痕を記録しています。水害は苦勞して作った作物を根こそぎ流してしまい、時には耕作地も削り取っていきま

すが、治水は国と農民にとって大問題ですが、地球規模の温暖化が地方の農村まで影響を与えるのです。

▼銅賞「森」

森山浩隆さん(長崎県)

切り株から生える新芽を襲という「もし」とも読みます。作品は圧倒的な美意識とそれを映像化する撮影技術の高さで成り立っています。土から出てきたばかりの生命の強さと不思議さを捉え、美しさの中に自然が持つ神秘性までもが写っています。

とでしよう。

### ▼金賞「伝統を守る」

白木勇治さん(京都府)

蒸気の中での玉こんにやく作り。シヤッターチャンスが的確に見るだけで重労働が伝わってきます。被写体までの距離がすごい。真上に近いカメラポジションを確保し、15mmや18mmという超広角レンズを使いこなす手なれです。

▼銀賞「ポツン」と収穫中」

長浦敏雄さん(長崎県)

山上の一部を開墾し稲作が行われている不思議な光景です。周囲を木々に囲まれている田んぼ、コンバインの音だけが聞こえるそうです。遠景にすると説明的になりやすいところを、「ポツン」というタイトルで作者の視点が強調されました。

▼銅賞「時代の波」

西山昌敏さん(神奈川県)

美しいカーブを描く高速道路は、近代化という名の象徴でもありません。その存在感は高速道路の下で働く高齢の農民をも圧倒してしまっています。建設中の白く輝くコンクリートの帯が、ますます農民と農地を狭くしていきような危惧さえも感じられます。

▼銅賞「大水害の農村」

3枚組

河野サエ子さん(山口県)

猛威を振る自然災害の爪痕を記録しています。水害は苦勞して作った作物を根こそぎ流してしまい、時には耕作地も削り取っていきま

すが、治水は国と農民にとって大問題ですが、地球規模の温暖化が地方の農村まで影響を与えるのです。

▼銅賞「森」

森山浩隆さん(長崎県)

切り株から生える新芽を襲という「もし」とも読みます。作品は圧倒的な美意識とそれを映像化する撮影技術の高さで成り立っています。土から出てきたばかりの生命の強さと不思議さを捉え、美しさの中に自然が持つ神秘性までもが写っています。



# 「春を撒く人たち」 坪井 智洋さん 北海道



# 「ポツン」と収穫中」 長浦 敏雄さん 長崎県



# 「楽しい家畜共進会の日」(3枚組み) 五十嵐 敏紀さん 秋田県







「畑で発電」  
名雪 誠さん 千葉県



# 第48回「新・日本の農村」写真コンテスト

現代の農業・農村や農家の姿などをテーマに、集落での暮らしや農作業、災害などの写真を募集する農業共済新聞主催の第48回「新・日本の農村」写真コンテストの審査会（審査委員長・尾辻弥寿雄氏、日本写真家協会会員・日本リアリズム写真集団会員）がこのほど開かれ、各賞の受賞者が決定した。応募総数229点（応募者数105人）の中から、最優秀賞（賞金10万円と盾）には名雪誠さん（千葉県）の「畑で発電」、金賞（賞金5万円と盾）には白木勇治さん（京都府）の「伝統を守る」が選ばれた。銅賞までの上位入賞作品を紹介する。

### 第48回「新・日本の農村」写真コンテスト 入選者

賞	氏名	県名	画題
最優秀賞	名雪 誠	千葉県	畑で発電
金賞	白木 勇治	京都府	伝統を守る
銀賞	坪井 智洋	北海道	春を撒く人たち
銀賞	長浦 敏雄	長崎県	ポツン、と収穫中
銅賞	五十嵐 敏紀	秋田県	楽しい家畜共進会の日(3枚組み)
銅賞	西山 昌敏	神奈川県	時代の波
銅賞	河野 サエ子	山口県	大水害の農村(3枚組み)
銅賞	森山 浩隆	長崎県	薬(もやし)
佳作	石橋 一彰	北海道	牧草ロールパトロール中
佳作	秋篠 重仁	岩手県	ヤマサシ咲くころ
佳作	足利 義信	岩手県	雪の朝
佳作	達下 進	岩手県	ただ今、田ならし中
佳作	千葉 守保	岩手県	草刈作業
佳作	相楽 執一	福島県	冬の恵み
佳作	坂本 徹	群馬県	稲刈り
佳作	松澤 詩織	長野県	麦ガール
佳作	篠田 光雄	愛知県	茶摘み体験
佳作	竹田 等	愛知県	眼下に広がる
佳作	浅山 昇	三重県	地域の春祭り
佳作	浅山 博子	三重県	それぞれの楽しみ方
佳作	伊藤 孝司	三重県	重たいよ～
佳作	石浦 隆	京都府	ひ孫と小豆の収穫
佳作	小和泉 春男	京都府	冬の風物詩「大根ツリー」
佳作	平田 晃一	岡山県	春を摘む
佳作	井上 勉	愛媛県	再利用を生かす
佳作	廣田 文子	福岡県	ひまわり娘
佳作	高尾 慎次	長崎県	初夏の釣り
佳作	山田 宏作	鹿児島県	健やかに



「薬」  
森山 浩隆さん 長崎県



「時代の波」  
西山 昌敏さん 神奈川県



「大水害の農村」  
(3枚組み)  
河野 サエ子さん 山口県

